


I C T 授業実践例（農業・水産）

1 対象学科・学年・人数	農業園芸科 2年生 20名	
2 科目・単元名	総合実習	クロマツの剪定
3 使用した I C T 機器	タブレット端末・プロジェクタ・スクリーン・書画カメラ	
4 活用のねらい	<p>実技指導の補助教材として、タブレット端末を用いて、スライドや画像を投影する。また、書画カメラを用いて、剪定手順をスクリーンに大きく投影することによって理解を深めさせる。仕上げたクロマツの枝を全体の場で投影し、評価することで、剪定技術の向上を図る。</p>	
5 I C T 活用の場面	学習内容・活動	I C T 活用の場面
	<p>クロマツの特徴や剪定の目的、剪定手順について理解する。</p>	<p>タブレット端末でクロマツの特徴や剪定の目的を確認させ、技術的なポイントを理解させる。</p>
	<p>小枝をY字に仕立てたり、中止めやもみ上げの技術を習得したりする。</p>	<p>書画カメラで剪定手順を示範したり、生徒が仕上げた小枝を書画カメラで確認・記録・評価をする。</p>
6 I C T 活用のポイント	<p>タブレット端末はプロジェクタと無線で接続しているため、机間指導により生徒の反応を確認しながら授業を展開できる。</p> <p>書画カメラの示範では、生徒の視点で剪定の手順を確認させることができる。生徒が仕立てた小枝をスクリーンに投影することで、技術的なアドバイスを全員で共有することができる。</p> <p>また、生徒が仕立てた小枝は書画カメラで記録・保存することで、評価に活用することができる。</p>	
	<div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">デジタル教材</div>	
7 生徒の反応	<p>クロマツは他の樹木と違い、剪定方法が分からず難易度が高いという先入観があったようだが、今回は映像で確認できて、理解が深まったようであった。</p> <p>クロマツの特徴を理解させ、細かな作業も手元を拡大することで理解が深まり、自信をもって取り組むことができていた。</p>	
8 今後の課題	<p>タブレット端末にはノートパソコンにはないピンアウト機能や書き込み機能があり、今後効果的な活用を図るためには機器の機能や操作性を高めていく必要がある。</p>	